

事務事業評価における総括

部 局 名	企画部	記入責任者	添田 信三
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>企画部 6 課では、政策的な事業において、30 事業に取り組みました。結果、S 評価が 19 事業、A 評価が 2 事業、B 評価が 4 事業、C 評価が 2 事業、E 評価が 1 事業、実績なしが 2 事業という結果になりました。</p> <p>企画部の事業は、庁内及び庁外の関係機関等の調整を図りながら進めていく事業が多いという特徴があります。外的な要因に左右されるという事業性質はあるものの、実施成果として 21 事業で成果があがっており、また 6 事業は今後成果が見込めるものとしています。社会の変化に対応できる行政計画の達成に向けて、着実に取り組みを進めているものと考えます。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>E 評価としている政策コンテスト開催事業は、参加チーム数を指標としており、実施にあたって参加者をいかに増やしていくかが課題となっています。今後は、実施手法を変更することとしているため、そのような課題も踏まえながら、より良いあり方を検討していきます。</p> <p>また、C 評価としている（仮称）河童徳利ひろば整備事業や、県立茅ヶ崎里山公園外周道路整備事業等については、事業の進捗状況を指標にしているため、関係機関調整等に時間を要していることなどが評価に影響しています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた各事業の今後の方向性について】</p> <p>平成 30 年度に取り組んだ事業は、成果があがった及び成果が見込める事業は 27 事業（90%）でした。これらの事業は、今後さらなる成果・効果を見込むため、事業実施に関する様々な見直しを検討しながら、継続した取り組みを進めていきます。併せて、各課が、施策のねらいや事業目的を改めて振り返り、働き方の見直しを推進する部局として積極的に事業の効率的・効果的な手法を検討していきます。</p> <p>次期総合計画の策定や組織・機構の見直しに係る作業が本格化していくことから、企画部内はもちろんのこと、全庁的な連携を密にし、取り組みを進めていきます。</p> <p>さらに、A I や R P A などの導入についても積極的に推進し、職員負担の軽減や市民サービスのさらなる向上を図ることで、持続可能なまちづくりを進めていきます。</p> <p>今年度は、次期総合計画の策定作業をはじめとして、今後の行政運営の方向性を示していくための重要な取り組みを進めており、市民に対してより積極的に市政情報を発信していきます。</p>			